

平成 30 年度在京古高同窓会定時総会 講演紹介

1. 講演者：荒川 忠一

東京大学名誉教授、京都大学特任教授、名古屋大学客員教授



2. 講演テーマ：「風力発電の国内外の最新動向と日本の探るべき方向性」

【講演要旨】

風力発電は世界では 500GW を超え、原子力よりも大きな設備容量を有し、広く普及している。残念ながら日本はわずか 3GW にとどまり、政府目標として「主要電源の一つ」と説明するものの、数値目標はわずか 10GW 程度であり、その普及は大幅に遅れている。日本は排他的経済水域と呼ばれる海の面積は世界 6 位の広さを誇り、洋上風力発電の大きな可能性を秘めている。

今後の日本が探るべき風力発電、および再生可能エネルギーの方向を解説します。



3. 講演者プロフィール

【略歴】

1970 年 (昭 45) 古川高校卒業

1974 年 東京大学工学部機械工学科卒業

1980 年 東京大学工学部機械工学専攻博士課程修了、工学博士

1996 年 東京大学教授 (大学院工学系研究科機械工学専攻)

2000 年 東京大学教授 (大学院情報学環)

2017 年 東京大学定年により退官。

現 在：東京大学名誉教授、京都大学特任教授、名古屋大学客員教授

世界風力エネルギー学会副会長で活動中

4. 専門分野

流体力学、数値流体力学、風力工学、シミュレーション学、メディア芸術

* 古高昭和 45 年卒 池月小、一栗中 出身